

八木秀次の代表的発明(八木アンテナ)

八木アンテナは、東北帝国大学の八木秀次博士と助手の宇田新太郎博士が発明した指向性アンテナです。簡単な構造でありながら高い利得が得られる画期的なものであり、超短波、極超短波で使用されているTVなどの地上波放送の受信用アンテナのほとんどがこの方式によるものです。

この発明はその着想時期(大正15年特許取得)が早すぎたため、当時の日本では理解されませんでした。欧米においてはその価値が認められて実用化されました。特に、第二次世界大戦中に相手国のレーダー用アンテナとして使用されているのを発見し、日本でもその発明の真価に驚いたといわれています。



八木博士と八木アンテナ